

平成20年度 小林商業 高等学校 学校評価

教育目標 本県の教育基本方針に基いて、確かな力を基盤とする教育の推進。 郷土及び国家社会の発展に寄与する有為な人材の育成。 心身ともに調和の取れた心豊かな人間の育成。 上記のことを通じて、自己教育力・健康増進ならびに生命尊重の精神を養成していく。				〔学校関係者評価のポイント〕 ・自己評価の項目や指標は、適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等をもとにした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。		
経営方針 校訓 「自主・創造・親愛」 教育スローガン『チームワークで心身緑化』 *全職員が共通理解のもと、あらゆる教育活動を通して、生徒が自主的に活動する教育を目指す。 *将来の商業人としての人材を育成するとともに、新しい文化を創造する力を育成する教育を目指す。 *生徒一人一人が互いを認め合い、理解しあうとともに自らも大切に親愛の心を育む教育を目指す。 この実現を目指して、全職員が強力なチームワークをもって「たくましいからだ・豊かな心・すぐれた知性」をそなえた『心身緑化教育に努める。』						
本年度の重点目標 基礎学力の定着・向上 高次の資格検定取得の推進 基本的生活習慣の確立 部活動の推進 進路意識の高揚と進路実現への働きかけ						
重点目標	評価項目	具体的方策 又は 具体的指標	自己 評価	学 校 関係者 評 価	学 校 関係者 評 価	評 価 ・ 具 体 的 意 見
基礎学力の定着・向上	・授業評価 ・授業研修	・年2回、各教科担任の授業を生徒自身が評価する。 ・授業研究に励み、工夫改善に努め確かな学力をつけさせる。	B	7月と12月に、授業評価を実施したことにより、授業のあり方や工夫すべきことが明確となった。今後は、授業研修への取り組みを活性化させていく必要がある。	B	生徒一人一人が「学ぶ喜びや達成感・達成感を味わえる」取り組みを工夫して頂きたい。
	・ベル着、ベル開始の徹底 ・ノーチャイム	・時間を守る観念と授業への準備動作を含めた取り組み。	B	時間を有効に活用していくことに、生徒も職員も懸命に取り組んでいる。	B	時間にルーズにならないように、先を見通した行動ができるようにして欲しい。
	・朝の10分間読書	・心を落ち着かせ、学習への意欲を喚起する取り組み。	A	10分間を静かに取り組んでおり、授業への導入環境がスムーズにできている。	A	集中力が高まり、生徒一人一人の内面を鍛えていくことができる。今後も続けて頂きたい。
	・基礎学力テスト ・単元確認テスト	・基礎基本の充実を図り、学力を伸長させる。 ・教科内容の理解力を高めることを目的として実施している。	B	定期考査への不振者が減少してきているが、どうしても改善できない生徒がいるため、該当学年会とも協議しながら改善に努めていきたい。	B	生徒個々人の持つ能力を見極めることによって、具体的な創意工夫を行う素地ができる。このことを起点とした取り組みが求められている。
高次の資格検定取得の推進	・全商主催検定1級3種目以上30名合格	・教科科目の理解と共に、資格取得を進路の重要なポイントとして、位置づけている。	A	3年生の取り組みが著しい。本校創立以来初の30名の合格者を出ることができた。このことを最終学年へ繋いでいきたい。	A	本校創立以来初の30名合格は、快挙である。この素晴らしい取り組みを最終学年でも生かして頂きたい
	・日商簿記会計2級20名合格	・商業の基礎基本の上に、構築される高度な知識・技術の修得を目指す。	B	高次の資格であるため、読解力・計算力等に力を入れて、指導を行っている。更なる奮闘努力が求められる。(合格者17名)	B	基礎基本の上に、生徒達が大きな自信と意欲を持って取り組んでくれることを願っている。
	・初級シスアド10名合格	・商業の基礎基本の上に、構築される高度な知識・技術の修得を目指す。	B	午前中は全員合格だったが、午後を含めると結果的に、3名の合格に留まった。次年度に向けて、更なる努力が求められる。	B	問題の分析と同時に、今後の傾向と対策を早急に考え、生徒を鍛え伸ばしていくことに努力して欲しい。
基本的生活習慣の確立	・容儀の常時指導 ・徹底週間の実施	・生徒一人一人のあり方を正しく位置づけさせることで、学校への愛校心を持たせる。	B	従順な生徒が多く、注意すると直すが自主的な取り組みとなると時間と指導が必要である。	B	生徒を教え伸ばす手立ては、親自身の気づきによるところが非常に大きい。脚下照顧の姿勢で臨むべき。
	・朝の挨拶運動 ・ゴミの減量化	・親と子とのコミュニケーションには欠かせない取り組みである ・校内美化のためにゴミ箱を校内には設置していない。	A	親の協力が素晴らしく、声掛けがしっかりと行われた。また、校内美化にも生徒一人一人がよく理解して、取り組んでくれている。	A	親が率先して、学校に協力していく姿勢を示していく。また、子供達の成長・発展をサポートできる親であって欲しい。
	・悩みアンケート ・語る会	・悩みアンケートや語る会を実施することで、生徒の心の動きをつかみ支援していく。	B	生徒の内面に迫る工夫がされており、生徒のよりよい変化として、相談が多く行われている。	B	子供達の心の悩みや相談を聞いて頂けるシステムは、実に有難いことである。今後も続けて頂きたい。
部活動の推進	・部活動の活性化	・部加入と同時に、活動内容を検証し活性化していく。	B	閉校を1年後に控え、部活動の活性化に課題が残る。合同チームや部員数の減少等の課題を整理していきたい。	B	部活動推進は、学校のバロメータである。閉校までの限られた時間を生かせる取り組みをして頂きたい。
進路意識の高揚と進路実現への働きかけ	・キャリア教育の推進	・外部講師や卒業生を招くことで、進路に対する意識を高める。	A	進路意識の醸成のために、あらゆる工夫改善を加えて取り組んでいる。生徒の意識も高く、懸命に取り組んでいる。	A	早期からのキャリア教育は、進路への限りない挑戦を与えてくれる。さらなる創意工夫を願っている。
	・進路実現	・就職 面接指導および求人開拓 ・公務員・進学 課外の実施、傾向と対策について分析を行い、積極的に取り組んでいく。	B	進路を100%実現できたことが大きい但し、公務員への合格率が伸びなかったことを十分に検証し、次年度へ生かしていくことが強く求められる。	B	2年次から計画的かつ効果的な取り組みを推進すること。加えて、徹底した現状分析と度重なる錬成を行い生徒達一人一人を鍛えて頂きたい

A：十分達成 B：概ね達成 C：検討の余地あり D：不十分